島根県水産技術センター　漁況情報　平成 20 年 5 月 14 日発行

トビウオ通信　（H20　第４号）

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《平成 20 年度第１回日本海スルメイカ漁況予報》

平成 20 年 4 月 28 日に独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所より第 1 回日本海スルメイカ長期漁海況予報が出されました。今回はその内容を基に、スルメイカの今後の漁模様の検討をします。

今 後 の 見 通 し（ 予報期間 5～7 月　日本海区水産研究所発表 ）

（1）　来遊量：近年平均並み（昨年を上回る）。

ただし、5 月の山陰では近年平均を下回る。

（2）　漁期・漁場：北上が早く、漁期の経過は早い。

（3）　魚体の大きさ：近年平均並み。山陰では大型が少ない。

※ 近年：過去 5 年間（2003～2007 年）

日本海におけるスルメイカ資源の動向

幼生の分布量の調査結果

昨年の秋に日本海西部から九州西岸海域において日本海区水産研究所および各県の関係機関によりスルメイカの幼生（図 1）の分布量調査が実施されました。その平均採集個体数は前年を上回ったものの、近年平均（過去 5 年）より下回りました（図 2）。このことから日本海西部における昨年の秋のスルメイカの発生量は、前年よりは多いものの近年よりは低い水準と考えられました。

図1　スルメイカの孵化幼生
（外套背長約1mm）

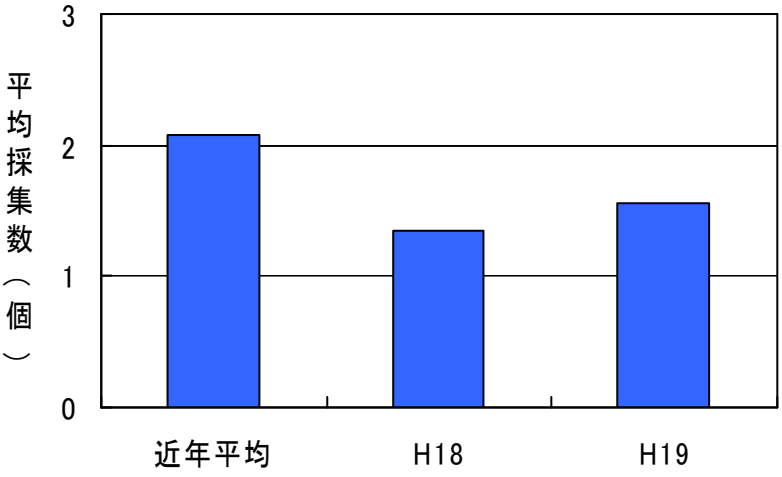

図 2.　日本海西部海域においてプランクトンネットにより採取されたスルメイカ幼生の平均採集数の比較（実施時期：10～11 月）

加入前のイカの分布量の調査結果

イカ釣り漁業では体長（外套背長）が約 15 センチ以上の大きさのイカが漁獲対象となりますが、漁獲対象となる前の大きさのイカの分布量を知ることで漁期前に漁況を予測することが可能となります。スルメイカについても毎年、漁獲加入前の小型の個体の分布調査が実施されており、スルメイカの漁況を予測する上で重要な調査となっています。今年も 4 月に日本海沖合海域において、表層トロール網を用いた漁獲加入前のスルメイカの分布量調査が日本海区水産研究所や関係各県により実施されました。その結果、採集されたスルメイカ（外套背長は 2～10 センチ）の 1 調査点あたりの平均採集個体数は 35.0 個体となり、近年平均（33.0 個体）を上回ったものの、前年（54.5 個体）を下回りました（図 3）。

ただし、今年採集された個体には予報期間に漁獲加入する体長 5 cm以上の大型個体が多く、その採集個体数は近年平均および昨年を上回りました。この結果と幼生の分布量などから、日本海全域における今期のスルメイカの来遊量は近年平均並みで昨年を上回ると考えられます。

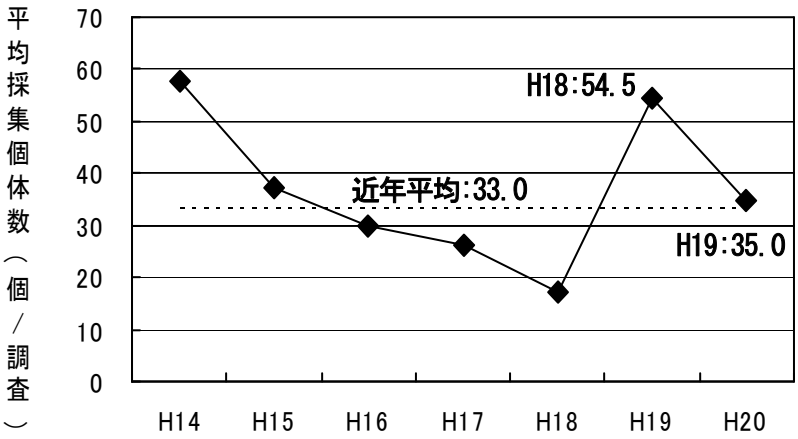

図 3.　日本海の沖合において表層トロール網により採集された漁獲加入前のスルメイカの平均採集数の推移（実施時期：4 月）

今後の島根県沖での漁況

スルメイカは低調

浜田港における小型イカ釣（5 トン以上 30 トン未満）と中型イカ釣（30 トン以上）によるスルメイカの月別の漁獲動向を図 4 に示しました。平成 20 年の 4 月までの漁獲量は 628 トンで、近年比では 81%、前年比では 80%に留まりました。漁況の経過から、今年は冬生まれ群の南下時期が遅くなり、それらが一斉に 2 月に漁獲されたことに加え、夏生まれ群の北上が遅くなり、4 月に漁期がずれ込んだと考えられます。

日本海全域におけるスルメイカの資源量は 5 月までは昨年を下回ると判断されているものの、その後の島根沖への来遊量は、近年より水準は低いものの、前年並みに推移すると考えられます。ただし、近年は 5～7 月の漁獲量は比較的低迷する傾向にあり、まとまった漁獲はあまり期待できないと言えそうです。

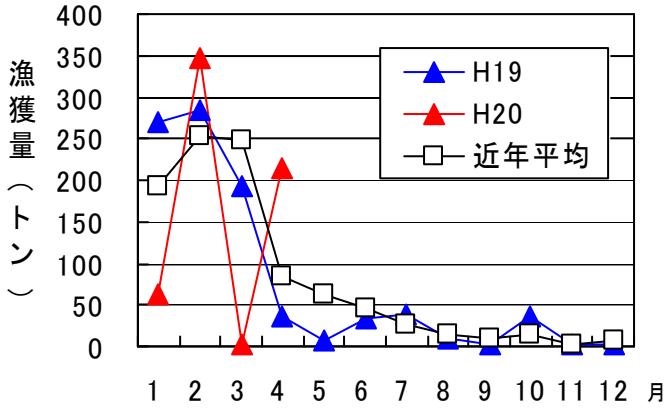

図4. イカ釣り漁業（5 トン以上）により浜田漁港に水揚げされたスルメイカの漁獲動向（H20 年は 3 月までの値）